

中国地区化学工学懇話会 2023 度 記念講演会 報告

主催 中国地区化学工学懇話会，化学工学会中国四国支部

日時 2023 年 4 月 28 日（金） 15：20～17：10

場所 ホテル広島ガーデンパレス 孔雀・朱鷺の間（〒732-0052 広島市東区光町 1-15、Tel. (082) 262-1122）

上記の日程で、2023 年度 記念講演会が開催された。2023 年 3 月以来、ポストコロナ渦という状況であり、従来通りの対面のみでの講演会であったが 100 名を超える（広島大学 化学工学プログラム M1 学生を含む）参加者が集まり、貴重な講演を聴講できた。以下に所感をまとめる。

(1) 15:20～16:10 「カーボンニュートラルは化学産業から」（早稲田大学 先進理工学研究科 応用化学専攻 教授 松方正彦氏）

松方先生は、現在化学工学会会長であり、学会のことも触れられていたが、それ以上に、2023 年 3 月から 4 月にかけて、日本のカーボンニュートラルの目標値設定がより厳しいものになったことが紹介された。近年の南極の堆積氷の溶解加速や深層海流の影響など科学的な根拠を元に気候変動が及ぼす CO₂ の影響について対応しないとイケないティッピングについて説明があった。サプライチェーンの長い化学産業において、資源とエネルギーの流れは大きな転換期を迎えていることが想像できる、熱のこもったご講演であった。今後の政策と実態とのすり合わせが必要である部分が多いが、カーボンニュートラル以外にも人力投資しなければならない日本の状況で、どう進めていくのが良いのか、各自宿題を頂いた印象である。講演で引用された、ネイティブ・アメリカンの言い伝え「地球はあなたの両親からあなたへと与えられたものではない。あなたの子供があなたに貸し出したものだ。人は祖先から地球を継承するのではない。子供たちから借りているのだ。」は重要な視点であると感じ入った。



(2) 16:20～17:10 「“木からできて自然に還る素材” 生分解性酢酸セルロース」（(株) ダイセル マテリアル SBU 研究開発グループ 主席研究員 樋口 暁浩氏）

(株) ダイセルの原点の一つである、酢酸セルロースは、セルロイドの難燃化から生まれた材料で、木材などの非可食植物（バイオマス）を原料とする生分解性ポリマーである。特に、今回アセテート変性された、プラスチック加工用の酢酸セルロース樹脂（植物由来、海洋生分解性、透明性）について説明があった。使用済み製品を回収することでマテリアルリサイクルが可能な循環型素材であり、生活に近い分野での展開が進みつつある印象を受けた。成形不良や天然資源にある独特なおいや色づきなどの点も添加剤開発を含め克服する課題もあるが、海洋での分解性の利点を使った不織布への応用、HIPS よりも機械特性が優れるなど、プラスチックをとりまく環境を考えると、意識的にそのようなプラスチックを自然と利用する社会になるように思えた。



最後に、記念講演会後に開催された対面での交流会も非常に盛り上がった会となった。当日は、元会長の田鹿様（(株) ダイセル）は急遽ご都合で欠席となりともて残念であったが、新会長（清水様・三菱ケミカル(株)）のご挨拶・副会長（加藤様・(株) アサヒテクノリサーチ）の乾杯のご発声を頂いた。今回、皆様有形無形のご協力のおかげで、久方ぶりの全対面開催とした総会・記念講演会・交流会を無事開催できたことにお礼申し上げます。

（文責：木原伸一）